

令和 6 年度第 2 回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和 6 年 11 月 8 日（金）10：00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター 6 階 多目的室

議 題：令和 6 年度（4 月～9 月まで）ごみ排出量について、ごみ質分析調査について【速報版】、その他

出席者：花嶋会長、内田委員、北委員、竹川委員、掛川委員、野口委員、櫻井委員、岸本委員、森委員、石村委員

次第 1．令和 6 年度（4 月～9 月まで）ごみ排出量について

（資料 1 に基づき、事務局より説明）

委 員：事業系ごみは、販売方法で大きく変化しており、例えば魚アラは増加しています。頭落としや骨なしが求められるようになり、できる限り家庭でのゴミを出さないようにしているからです。この点からは事業系ごみは増加しており、今後ごみ量が増加する可能性が考えられます。また、缶ジュースはどんどん売れなくなっており、缶は減少し廃プラは少し増加しています。販売状況により、今後変化していくと考えられます。取り組んでいるのは雑古紙で、今後も進めていこうと考えております。

会 長：ありがとうございます。他にご意見、ご質問、ご提案等ございませんか。

委 員：マナーアップ大作戦についてです。コンビニで買ったものを、そこで食べて、そこにおいて立ち去る、要するにごみを捨てているわけですが、これについて指導は考えておられないのでしょうか。

会 長：はい、事務局の方お願いいたします。

事務局：これはポイ捨てや不法投棄に当たり、ポイ捨てのマナー啓発は、市で取り組んでおります。中でも大きい取り組みとして、年に 2 回程、市内 4 駅前でポイ捨て防止の啓発活動をしております。また、ポイ捨て禁止の看板を必要とされる方にお配りしております。

会 長：ありがとうございます。他にご意見ご質問等ございませんか。

委 員：商業施設においては、徐々にごみ箱の設置を減らしています。コンビニ等も同様だ

と思いますが、家庭ごみを持ち込まれてしまうため、ごみ箱の減少は今後も続いていくと思います。

会 長：ありがとうございます。家庭ごみを捨てられてしまうと大変ですね。他にご意見ご質問等ありますか。

委 員：マナーアップ大作戦についてです。コンビニや街中に防犯カメラを設置し、寝屋川市は防犯に力を入れているというイメージを向上させると、交通マナー、ごみ捨てのマナー、喫煙のマナーにおいて相乗効果があると思います。アルミ缶や電気電化製品の持ち去りについても減少すると思います。

事務局：防犯カメラの抑止力には効果があると認識しておりますが、設置場所、位置、確保等課題があると考えております。そこで防犯カメラ以外の施策として、特にご指摘のある資源の持ち去りに対して、資源ごみの日に職員による早朝パトロール及び委託業務による深夜のパトロールを実施しております。ある一定の抑止力があると思っておりますが、このようなお問い合わせがあるのは事実でございます。

会 長：はい。ありがとうございます。他にご質問、ご意見等ございますか。

委 員：飲食店等の事業系ごみで最終的に廃棄されるものの中に、再利用や資源化できるようなものはあるのでしょうか。

事務局：家庭系ごみ、事業系ごみについても同様ですが、ごみの中にはリサイクルできるものが含まれているのが現状です。市民の方に対しては広報や、クリーンカレンダーでリサイクルについて周知をしており、一部の事業者の方に対しては、事業系一般廃棄物減量等計画書を提出していただく際に、ごみの減量についての啓発文書を添えております。

会 長：ありがとうございます。

委 員：店舗では、ペットボトルや服の回収、フードドライブに取り組んでいますが、人手や手間があまりかからないように、洗ったペットボトルを回収する等のルールを決めての取り組みになると思っております。

会 長：ありがとうございます。他にご意見、ご質問等はございますか。

委 員：資料の1について、昨年と比べ、家庭系ごみは減少しているのに、家庭系不燃ごみは増加しているのでしょうか。資源の持ち去りがなければさらに増加します。

事務局：今時点で、家庭系不燃ごみの増加の要因は言いがたいところではありますが、コロ

ナ禍に家の片付けに取り組まれて、不燃ごみが増加したという経過があり、家の片付けが習慣化した可能性も考えております。また、資源の持ち去りによる寝屋川市のごみ量の減少は、影響するほどの数字ではないと考えております。

会 長：ありがとうございます。他にございませんか。

委 員：資料1の家庭系資源ごみの内訳を教えてください。

事務局：家庭系資源ごみの内訳は今現在持ち合わせておりません。申し訳ありません。

会 長：ありがとうございます。私から質問です。追加資料の広報ねやがわの9月号にB地域が勝者だったと掲載されていますが、10月号や11月号の結果はどうでしたか。

事務局：10月号はA地域が-45 t、B地域が-209 tという結果になっております。10月号が8月の結果であり、2か月遅れの結果となっております。

会 長：わかりました。最初に施策が掲載されたのが7月号で、まだ結果は出てないということですか。

事務局：11月号の広報は出ます。広報の締め切り等様々な事情があり、2ヶ月ずれるので、11月号については、9月の実績となります。

委 員：B地区がどのような取り組みをして減少したのかを掲載したらいいと思います。よく減少している地域には、報奨等をする事で、A地区もがんばるのではないかと思います。数字というよりも、今後どのように変わり、変えていくのかが必要ということだと思いますが、いかがでしょうか。

委 員：地域は、どのように分けているのでしょうか。2地域で競ってごみを減少させることに効果があるのかという感想を持ちました。以上です。

会 長：ありがとうございます。事務局の方お願いします。

事務局：まず1点目です。地域間で競わせるというイメージがありますが、あくまでも市民の皆様にごみ減量における動機付けとして、1日当たり10グラム減らしましょうという目標を掲げております。2点目はA地域とB地域の分け方についてです。クリーンカレンダーのピンク色の表紙側がA地域、緑色の裏表紙側がB地域になっており、それぞれ下方に町名を記載しております。

会 長：ありがとうございます。どちらが勝ってもあまり意味はないのですが、もしB地域ばかり勝つとA地域の動機付けにならないので、減量に向けて取り組んでみようと、思うような仕掛けを少しずつ入れていくといいと思います。他にございますか。

委 員：パッカー車で収集する際に、ごみが多い地域や人口の割にごみが多い地域は把握されているのでしょうか。

事務局：具体的な数字を示すような根拠はございませんが、パッカー車にまだ積むことができる、やめておいた方が良くといった、判断材料としても必要となりますので、収集の担当はごみが多い地域を把握しております。

会 長：ありがとうございます。他に何かございませんか。

委 員：ごみ減量大合戦について非常にいい施策だと思います。近年環境問題に関する研究では、人は大きな目標を与えられたときよりも、地域の身近な目標の方が環境保護に対する行動が、促進されるということが明らかになっており、例えば地球全体のごみ問題を解決するために、寝屋川市民で頑張ろうというよりも、寝屋川市のごみを減らそうという方が、減量行動が推進されると思われますので環境問題の研究に沿った施策になっていると思います。その中で2点質問ですが、広報9月号でA地域が+98 t、B地域が-73 tであれば、全地域だと増加しているのでしょうか。

事務局：そうです。

委 員：もう1点は、例えばもともとB地域は、昨年以降が減少傾向で、A地域は増加傾向であった場合、この結果になったのは必然かと考えられますが、いかがでしょうか。

事務局：申し訳ございませんが、そこまでのデータはございません。あくまでごみ減量に対する動機付けとして行っております。

委 員：私が事業者様を支援する中で、事務系のごみであったものを、再度価値を与えるというアップサイクルがトレンドになってきているので、寝屋川市でも成功事例になればいいと思います。質問ですが、資料1に人口、世帯数の記載があり、1人当たり、1世帯あたりに分解できると思いますが、同等の人口規模、事業所数の他市と比べたときの比較はされていますか。もう1点が地域対抗の話です。この取り組みはトップダウンか、ボトムアップで地域からの声があり実現したのかいかがでしょうか。組織論的には、ボトムアップ型の事例の方が、改善活動が生まれやすいと言われています。

会 長：事務局お願いします。

事務局：1人1日当たりのごみ排出量について令和元年から令和4年まで府内平均と寝屋川市の比較をしており、寝屋川市の方が少ないという結果が出ております。

委 員：人口規模や、事業者数規模間での分析は特にはされてないですか。

事務局：あくまでも府内平均との比較になります。また、広報掲載のマナーアップキャンペーンに関しましては、上から降りてきた形での施策となっております。

会 長：ありがとうございます。皆さんから色々なご意見が出ました。この地域対決は、すごく良い取り組みで面白いと思います。昨年、寝屋川市でごみを減少させた方法を募集しクリーンカレンダーに掲載したという取り組みがありましたが、このような体験談と一緒に掲載するのもいいかなと思いました。

次第２．ごみ質分析調査について【速報版】

（資料２に基づき、事務局より説明）

委 員：家庭系不燃ごみの中に紙類はどのように入っているのですか。

事務局：例えば不燃ごみにシールがついている場合や、純粹に紙類が混ざっている場合であり、割合としては低い数値であると考えております。

会 長：やはり違う分類のごみを入れる方は必ずいらっしゃるので、シールがついているといった微妙な話だけではなく、結構な量があるのでしょうか。

事務局：今回はそう大した量ではありませんでした。

会 長：他にございますか。

委 員：街路樹の葉が落ちるため、公園の木が切られているのを見かけると地球温暖化の観点からは、切らない方がいいのではないかと思います。このようなことから、最近では落葉のごみが減少している印象を持ちますがいかがでしょうか。仕分けは大変なので、一緒に燃やしているのであれば残念に思いますが、いかがでしょうか。

会 長：おわかりになればお願いします。

事務局：家庭系ごみで葉類は草木類に含まれてきます。この大部分が、家の庭の木を切ったごみに該当します。各家庭から可燃ごみとして排出された分は燃やして処理しますが、落葉を回収して堆肥化するという事業もさせていただいております。

会 長：もう少し詳細な報告がまた、次回以降あるということでしょうか。

事務局：はい。現在取りまとめ中ですが、詳細の報告書ができ上がりますので、何らかの形でお示しできたらと考えております。

会 長：ありがとうございます。もしお伺いしたいことがあれば、いかがですか。

委 員：２点伺います。まずプラ類は、廃プラ、硬質プラ、製品プラを合わせたものでしょ

うか。

事務局：はい、廃プラペットボトル、硬質プラ、製品プラを含めたものとなっております。

委 員：プラスチック類の中で、細かく分けていらっしゃるのですか。

事務局：プラスチック類につきましては大きく容器包装とその他に分け、容器包装の中でまた廃プラやレジ袋等と細かく分けさせていただいております。

委 員：もう 1 点です。事業系ごみの厨芥類が割合として 10%以上増加していますが、この 10 年間で市内の飲食店が増加しているのでしょうか。

事務局：飲食店の数につきましては、正確な数字は掴んでおりませんが、おそらくコロナ禍に減少しその後増加している傾向にあると考えております。我々の方から 1 点お聞かせいただけませんか。事業系ごみに関しては、基本的に可燃ごみとなるため紙類等が減少し厨芥類が増加するというのは健全なことであるという考え方で合っているのでしょうか。

委 員：店舗あたりの量が大事で、飲食店の数があまり変化していないのに、厨芥類の割合が増加しているのであれば、紙類が減少していてもいいことにならないと思います。しかし、事業系ごみに関してはどのような視点で見ると難しいところがあり、ごみだけを考えると減少することは大事ですが、寝屋川市の地域経済のことを考えると、事業系ごみが減少したからといって、その状況は事業所には良くない状況であり、ごみが増加したから駄目というわけではないと思います。

会 長：他にございませんか。どうぞ。

委 員：小売業をしています。事業系のごみの内訳について思った通りの結果でした。ペーパーレスで紙の資料が減少し、雑古紙での処理をしていることから、紙類は減少していると思います。表はあくまでも構成比なので、厨芥類が増加した形になっていますがおそらく紙類が大きく減少していると考えられます。厨芥類については、手付かず食品は我々で言う廃棄処分にあたり減少していますが、魚アラ等が増加しているので、この結果は大体思った通りだなと思っております。

会 長：ありがとうございます。他にございますか。

委 員：水分についてです。主婦は腐敗を避けるために、水分をしっかりと切れていない状態で収集日当日に出たごみを捨てると思います。それを新聞で包んで出せば、水分の量は減少するので、ひと工夫であれば取り組みやすいかなと思います。

会 長：この件で追加の質問です。この水分の計測方法を教えてください。組成調査を行うと、最初と最後で誤差が生じ、誤差は途中で流れ出した水分や蒸発した水分と計上することが多いです。

事務局：まず生ゴミにおける水切りについて、重さでごみ量を表すので水切りをすればその分ごみは減少しますというお願いをしていますが、委員がおっしゃるように腐敗防止の観点からも水切りが大事だという視点もあると思います。ありがとうございました。次に、この表で示している水分につきまして、正確には流出水分という収集時と分類した後の重さの差を計上しております。平成 28 年度の結果を、昨年のごみ減量化・リサイクル推進会議でお示ししており、流出水分をごみに含まれる水分として表示しましたので、今回も同様に流出水分をごみに含まれる水分として表示させていただきました。ちなみに厨芥類につきましては、含水率を計上しておりますので、詳しい報告書の中に表示できる予定です。また、生ごみ処理機購入費補助金を市の施策でしております。対象となる生ごみ処理機は電気式で水分を飛ばすようなものになります。今年度につきましては、とても人気がありまもなく予算額に達するという状況になっております。以上でございます。

会 長：ありがとうございます。流出水分であれば、以前と比べあまり差はないので、依然として割合が高いというのも減少したというのも、少し言い過ぎという気はいたします。厨芥類について、袋に入ったまま抽出し乾燥させて重量差を計測したのであれば差があるといえますが、今回の場合は天気や湿度で調査結果が変わってくると思います。この調査を理由に生ごみの水切りをしましょうというのは、少し言い過ぎという気がいたします。他にご意見ご質問等ございますか。

委 員：この表は構成比となっているので、平成 28 年度と比べ絶対数がどうなったかを記載すると見やすいと思います。世帯数も変化しているので、1 世帯あたりの値を出すと、本当の意味での増減が見えてくると思いますので、検討お願いします。

会 長：どうぞよろしくお願いいたします。皆様のおかげをもちまして、かなり活発な意見が出てきたと思います。それでは、案件 3 その他について事務局よりご説明をお願いいたします。

次第 3. その他

事務局：本年度のごみ減量化・リサイクル推進会議につきましては、年 3 回を予定しており、

本日が2回目となっております。次回の詳細は未定ですが、2月頃に開催を考えておりますのでご参加をお願いいたします。その他につきましては以上でございます。

会 長:以上で本日予定しておりました案件は、すべて終了いたしました。委員の皆様には、議事の円滑な進行そしてたくさんのご意見をありがとうございました。これをもちまして、令和6年度第2回、寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議を終わります。本日はどうもありがとうございました。